資料１

令和元年度　佐賀市立思斉小学校　学校評価(結果)

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
『見賢思斉』の精神で　たくましく未来を切り拓く児童の育成 ～小中一貫教育の推進を通して～	①　目標や夢の実現に向けて努力する児童 ②　学ぶ意欲をもち、自ら考え行動する児童 ③　自他のよさを理解し、よりよい人間関係を築く児童 ④　心身の発達について理解し、健康な心身をつくろうとする児童 ⑤　郷土に誇りをもち、郷土の文化や伝統を大切にする児童

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3　目標・評価

①　目標や夢の実現に向けて努力する児童

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	年度末評価	評価結果	次年度への改善策
教育活動「社会に開かれた教育課程」	小中一貫教育の推進 ●志を高める教育	・　自らの夢や目標の実現に向けて努力する志を高める教育活動の推進	①「勉強は夢や目標の実現に役立つと思う」児童を70%以上にする。 ②　授業を振り返って「わかった」「自分でできた」と評価する児童を70%以上にする。 ③「佐賀に愛着を持っている」と回答する児童を70%以上にする。 ④「交流会、発表会、コンテスト、体験学習等への参加が増えた」と回答する児童を60%以上にする。	①　全ての教科、学校行事等における、夢や目標について考えさせる時間・場面の設定。キャリア教育の視点を取り入れた指導。 ②　授業の振返りを毎時間実施。 ③「思斉学」の学習において、地域の人材・教育資源等を活用した体験活動・公講演会の実施。 ④　地域を舞台にした各種体験への案内。	A	①・校内研で達富洋二氏を招聘し、児童が全ての教科・行事において学習課題を理解し、活動の見通しをもって学習・行事に取り組めるようにした。 ②ふり返りを次の時間のめあてにできるような授業展開をしくみ、PDCAサイクルで児童が自身の取組をふり返っている。 ③総合的な学習の時間や生活科の学習で地域人材を招聘してむかし遊びや、郷土について知る学習を行うことができた。 ④久保田町にぎわい祭（思斉の郷まつり・まなざしフェスティバル）への出品・参加を児童に促した。	・年度当初に新指導要領や保護者・地域の願いに準拠した学校目標の理解を進める職員研修を行い、全職員に日々の学習・生活指導で思斉館の9年間を意識した指導の一貫性を持たせる。 ・児童が課題意識をもって学習に取り組めるような学習課題の設定や課題の解決につながる計画の作成を児童自身が考えていけるような学習を校内研と合わせながら作成する。 ・人材バンクの整理を行い、本年度活用した地域人材。教育資源について次年度へ引き継ぐ。 ・地域行事の年間計画と児童への参加の呼びかけを定期的に行い、参加者・成績優秀者を称賛する環境を整える。
	小中一貫教育の推進 ●9年間を見通した表現力等の向上	・　家庭学習時間の定着と質の向上	・「家庭での学習（宿題や自主学習）はきちんとできている」と回答する児童の割合を75%以上にする。	・　家庭学習の習慣獲得に向けた、小中同時期における重点時期の設定。 ・　学習の手引きや学習計画表等を利用した、家庭学習の定着と質の向上。	B	・家庭学習強化週間（家庭学習がんばろう週間）を設定し、チェックカードを活用した点検を6月と11月に行った。11月には、6月の結果を公表し、児童の意欲付けや家庭への啓発を行った。 ・アンケートの結果、「家庭での学習（宿題や自主学習）はきちんとできている」と回答した児童の割合は91%であった。学習の質に関しては、学級によりさまざまであり、引き続き指導していく。	・学習習慣の定着は学年や学期のスタートが重要であるため、4月、9月、1月に強化週間を設定してはどうか。 ・家庭学習時間の確保については、ゲームやスマホの利用時間や内容が関連していることが考えられるため、家庭での時間の過ごし方もあわせて指導していく必要がある。 ・家庭学習の質の向上に向けた方策については、今後検討していく必要がある。

②　学ぶ意欲をもち、自ら考え行動する児童

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	年度末評価	評価結果	次年度への改善策
教育活動「学び」	●学力向上	・　学び方を身に付けた児童の育成 ・　確かな学力を身につけた児童の育成	・　学習指導要領に基づく授業の工夫、改善、研究に取り組む。 ・　開発的教育課程を作成する。	・　公開授業、授業研究会の企画および運営。 ・　強みと弱みを踏まえた教育課程の作成。 ・　全国・県学習状況調査の実施及び分析。	B	・研究授業及び研究会、Q－U、NRTの分析に係る研修会を行い、小中学部が連携して校内研究についての理解と実践を深めることができた。	・今年度の取り組みを活かして、一人一本は研究授業に取り組む等、更に研究を深めていきたい。 ・9年間を見通した教育課程の見直し充実を図っていく。
	○特別支援教育の充実	・　個に応じた支援	・　全職員の共通理解のもと、支援を要する児童の把握と個に応じた適切な支援を行う。 ・　保護者との連絡を密にとり、進路の実現に向け全職員が授業内容を工夫・改善する。	・　特別支援教育に係る研修の充実。 ・　保護者との相談の機会をもつこと。個別の支援計画の定期的な見直し。 ・　関連機関等との連携。	A	・夏季休業中に、小中合同で講師の先生を招き「通常学級における特別支援」というテーマで講話をしていただき、支援の必要な児童についてのよりよい支援の仕方について研修会を行った。 ・保護者と必要に応じて個別の相談を行い、より良い支援について話し合った。 ・支援の必要な児童について巡回相談をお願いし、どのような支援の仕方が有効なのか、アドバイスをいただき、支援に役立てた。 ・困り感のある児童に関して、校内支援会議を開き、どのように対応すべきかを話し合い、児童の指導に役立てた。	・夏季休業中の小中合同研修会の時期や内容、講師招聘について、4月中に検討し教育センターや他の関係機関にお願いをし、より良い研修会にする。 ・支援の必要な児童に対しての対応の仕方を全職員で共通理解をし、学級担任だけの負担にならないように工夫する。 ・支援の必要な児童について、児童の保護者を交えて、関係機関・学校職員との話し合いの機会を設け、より良い対応ができるようにする。
	○主体性な学び	・　学ぶ意欲をもった児童の育成	・　家庭学習の充実、改善を図る。 ・　学びに向かう環境を整備する。	・　効果的な家庭学習の提案と充実週間の取組。 ・　計画的かつ戦略的な学習環境づくり。	B	・家庭学習の手引きや自主学習ノートの紹介などを活用し、具体的な家庭学習の方法について引き続き、児童への指導を行うとともに、学級便り等で保護者への周知と協力を求める。	・「家庭学習がんばろう週間」には、どのクラスも良く取り組めていた。今年度は中学部と合わせて、1・2学期に行ったが、来年度は小学部だけで3学期も行う。

③　心身の発達について理解し、健康な心身をつくろうとする児童

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	年度末評価	評価結果	次年度への改善策
教育活動「育ち」	小中一貫教育の推進 ●9年間を見通した 心の教育の推進	・　目標や夢をもち、実現に向けて努力する児童の育成	・　Q-U、NRTの分析と活用を取り入れ、PDCAサイクルを踏まえた指導を行う。 ・　開発的生徒指導の理念による指導を行う。	・　Q－U、NRTの利活用に関する研修。 ・　特別活動に関する研修。	A	・1学期に教育心理センター所員、河村茂雄氏を招聘し、研修を実施。実施と活用における共通理解を図った。夏休みにQ－U、NRT、知能検査のバッテリー調査と関連について研修を行った。 ・講師を招聘し、学校生活における出番・役割・承認の流れの作り方について研修を行い、各学年において実践を行った。本年度は委員会集会では児童が学校の課題を見つけ、全校に呼びかけることができている。	・教育心理センター所員の講師招聘など、外部機関から講師を招聘し、Q－Uの利活用に係る正しい知識を、職員が身に着けられるよう工夫する。 ・経験の浅い職員でも積極的に学校経営に参画できるよう、研修の場でのふりかえりで意見を求めたり、校務分掌等での役割を持って職務につけたりするようにする。 ・開発的生徒指導の観点を児童・職員が共通して理解しながら、学校生活を送れるよう周知徹底する。
	●いじめの問題への 対応	・　自分や他者のよさを理解し、他者と良好な人間関係を構築できる児童の育成	・　特別活動の充実、改善を図る。	・　児童会活動の充実と改善。 ・　教育相談に関する職員研修。	A	・夏季休業中に、「開発的生徒指導の在り方」について講師の先生を招き、よりよい人間関係を形成する学級づくりについて研修をもった。 ・小中連携による合同挨拶運動や挙手制による児童集会を実施することで、児童の自主性や創造力の育成を図った。	・開発的生徒指導の考えのもと、児童に自主性や創造力を付けるために、委員会集会を活用し、委員会活動の充実を図る。 ・教育相談に関する職員研修では、「メンタルヘルス」をテーマにした研修会を開き、職員間の連携や協力体制を強化する。
	●健康・体 つくり	・　健康な身体と豊かな心をつくりあげようとする児童の育成	・　体づくり、体力づくりと食育の充実を図る。	・　社会に開かれた教育課程を踏まえた学校行事の充実と改善。	A	・1学期に「新スポーツテスト」を実施し、児童の現在の体力を把握し、今後の体力向上の呼びかけた。 ・「早寝・早起き・朝ごはん週間」を実施し、規則正しい生活ができているか児童に確認させ、食育や体作りの大切さを全校に呼び掛けることができている。	・「新スポーツテスト」の結果を分析し、体育の授業で重点的に指導する項目を挙げ、全体に周知させる。 ・次年度も継続して実施するとともに、日頃からの規則正しい生活ができるような指導を徹底する。

④　郷土に誇りをもち、郷土の文化や伝統を大切にする児童

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	年度末評価	評価結果	次年度への改善策
教育活動「誇り」	○郷土学習「思斉学」の積極的な取組及び体験活動の充実	・　郷土に誇りをもつ児童の育成 ・　郷土の文化や伝統を継承する児童の育成	・「久保田町に誇れるところがある」と回答する児童を90%以上にする。 ・「家庭で思斉学の話をした」と回答する児童を80%以上にする。	・　キャリア教育の視点による思斉学の改善と充実。	A	・各学年において、総合的な学習の時間、社会科を中心に、地域に出向いて地場産業を見学したり、田植えなどの農業体験をしたりすることにより、久保田町のよさを体感させることができた。	・「思斉学スタートブック」の活用についてと、思斉学と他教科との更なる関連づけについて、年度はじめに職員の共通理解を図る。
	○外部人材の 活用	・　地域の人々と連携したより良い社会を築く児童の育成	・地域人材をはじめとする教育資源を活用した授業を行う。	・　地域人材バンクを整備。 ・　まちづくり協議会と連携した交流活動。	A	・ゲストティーチャーに来校していただき、郷土の開拓や農水産物の生産などについて、実際に従事している方の話をじかに聞くことにより、郷土の先人の遺業を知り、誇りをもつ児童の育成につながった。	・前年度の外部人材活用の引継ぎ ・前年度比較、加除修正を図り、実用性のある人材名簿としていく。 ・「思斉の郷まつり」での児童参画を推進する。（児童による出店等）

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目（あれば記入）

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	年度末評価	評価結果	次年度への改善策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・勤務時間の軽減に向けた職員集団の意識改革 ・個々の教職員における業務改善 ・教職員の働き方改革への取組に係る保護者・地域への発信	・働き方改革に向け、各教職員の状況をもとに個人目標を設定する。 ・昨年度よりも時間外勤務時間を20%減少させる。 ・教職員の働き方改革へのアンケート結果を、保護者・地域へ報告する。	・毎月の業務記録票の時間数の管理と改善指導。 ・業務改善に係る提案と共通理解・実践。 ・働き方改革への取組に係る、改善に向けた意見交流。	A	・教育活動に係る業務分担について、引き継ぎファイルを活用して、学校行事等の効率的な運用を図った。 ・業務改善に係る職員の意識改革については十分とはいえず、今後も資料をもとに討議する等の職員研修を通じて、個々の働き方について具体的に見直す風土づくりに努める。	・職務に対してやりがいを感じられる職場環境をつくるため、今年度の反省を踏まえた校時運営の最適化、運営機構や校務分掌の適正配置を行い、全職員の共通理解を図る。 ・業務が滞らないようにするため、進捗状況を適切な時期に点検する。その際、学校評価と個人の業績評価表の対応について留意する。

4　本年度のまとめ ・ 次年度の取組

○ 「学び」の成果については、小中一貫における指導力向上をめざし、「問い」を重視した単元指導計画や授業展開について研究を深めた。プログラミング教育についての授業研究会では、算数科におけるICT機器を活用した授業実践が提案された。新学習指導要領全面実施に向けた評価の観点について、職員研修を通じて共通理解を深めた。他方、家庭学習の定着については、強化週間においてこそ成果があったが、日常的・主体的な学びの定着においてはなお課題が残る。学習状況調査結果からは、読解力・思考力・表現力の向上について引き続き、授業改善を図る必要があるため、今後もPDCAサイクルに基づき、学力向上に係る具体的方策について見直し、実践に取り組む。

○ 「育ち」の成果については、特別支援教育に係る個別の支援会議、保護者相談会を定期・臨時に開催し、適切な支援や校内体制について都度、改善を図ってきた。次年度は年間を見通した支援体制について、年度当初に特別支援チームと交流学級との連絡を中心に、学校全体でよりきめ細かな支援体制づくりに取り組む。いじめ防止に係る調査や認知事案への対応については、学級担任や生徒指導担当を中心に、報告・連絡・相談を密にして解消に向けて取り組んできた。また、Q-uテストの結果を生かし、開発的生徒指導の観点から児童一人一人に役割を与え、集団生活への満足度を向上させることができた。

○ 「誇り」の成果については、地域人材を活用した授業実践や体験活動を通して、地域を愛し郷土に誇りをもつ児童の育成に取り組むことができた。また、読み語りボランティアの活用、地域の祭りへの参加、市総合防災訓練への参加など、地域との連携を深めることができた。次年度は、円滑な地域とのコーディネートに係る体制づくりに取り組む。

○　学校運営に係る業務改善については、会議の縮減、週時程の見直しにより、前年度より放課後の時間確保を実現した。来年度は適正な勤務時間の管理に加え、仕事の質の向上を図るため、業務内容について定期的な点検・改善を行い、働きがいのある職場づくりに取り組む。